

令和3年度 社会福祉法人いいたて福祉会事業報告書

1. 令和3年度 社会福祉法人いいたて福祉会事業報告書
1～ 2ページ
2. 令和3年度 特別養護老人ホームいいたてホーム事業報告書
3～24ページ
 - ホーム事業報告書（全体） 3～ 7
 - 各家生活報告書（6ユニット） 8～19
 - 医務室事業報告書 20～22
 - 厨房事業報告書 23～24
3. 令和3年度 いいたて在宅介護支援センター指定居宅介護支援事業所事業報告書
25～28ページ
4. 令和3年度 事務室事業報告書
29ページ
5. 令和3年度 研修報告（研修一覧）
30～33ページ

令和3年度 社会福祉法人いいたて福社会事業報告書

1. 基本方針について

地域福祉の拠点の担い手となるため、快適に過ごせる場の提供。また、将来への安心感に繋がるサービスを継続して行くため、職員の育成や環境整備等に努めてきた。

(1) 地域貢献

<ul style="list-style-type: none"> 社宅の一部を「いいのどんぐりの会」に無償貸与 (児童等の第三の教育の場を提供。また、地域の方との交流の場としても活用)
<ul style="list-style-type: none"> 施設内を交流の場として開放

(2) 職員の質の向上

<ul style="list-style-type: none"> オンライン研修を何時でも受けられるよう会議室等を解放 資格取得に向け、自由に利用できる学習室を設けると共に、講習会費用の支援や勤務体制にも配慮。
<ul style="list-style-type: none"> 職員が気兼ねなく相談等ができる部屋（相談室）を設けた

(3) 人材確保

<ul style="list-style-type: none"> 被災地介護施設再開等支援事業補助金を活用し職員募集等のPRグッズを配布。
<ul style="list-style-type: none"> ホームページ等をリニューアル。(携帯でも閲覧可能とした)

2. 事業内容について

・理事会、評議員会、監事会、評議員選任・解任委員会の開催状況

理事会年6回、評議員会年2回、監事会年1回開催

(1) 理事会の開催状況(理事定数6人、監事2人)

回数	開催日	出席(人)		内 容
		理事	監事	
第1回	令和3年 4月30日	6	2	報告第1号 令和2年度第4回理事会議事録の確認について 報告第2号 諸事業報告について 議案第1号 社会福祉法人いいたて福社会評議員選任・解任委員の選任について
第2回	5月26日	5	2	報告第1号 令和3年度第1回理事会議事録の確認について 報告第2号 諸事業報告について 議案第1号 令和2年度社会福祉法人いいたて福社会事業報告について 議案第2号 令和2年度社会福祉法人いいたて福社会一般会計収支決算について 議案第3号 社会福祉充実残額の算定結果について 議案第4号 社会福祉法人いいたて福社会理事候補者の推薦について 議案第5号 社会福祉法人いいたて福社会監事候補者の推薦について 議案第6号 社会福祉法人いいたて福社会評議員候補者の推薦について 議案第7号 社会福祉法人いいたて福社会評議員の招集について 議案第8号 社会福祉法人いいたて福社会評議員選任・解任委員の招集について 議案第9号 福祉サービスに関する苦情解決体制に関する第三者委員の選任について
第3回	6月21日	6	2	報告第1号 令和3年度第2回理事会議事録の確認について 報告第2号 特別養護老人ホームいいたてホーム施設長の辞任について 報告第3号 社会福祉法人いいたて福社会評議員選任・解任委員会議の結果について 議案第1号 社会福祉法人いいたて福社会理事長の選任について 議案第2号 社会福祉法人いいたて福社会業務執行理事の選任について 議案第3号 特別養護老人ホームいいたてホーム施設長の選任について 議案第4号 社会福祉法人いいたて福社会特別養護老人ホームいいたてホーム処務管理規程の一部変更について 議案第5号 社会福祉法人いいたて福社会就業規則の一部変更について 議案第6号 社会福祉法人いいたて福社会給与規則の一部変更について 議案第7号 西棟ホールエアコン更新工事委託契約について 議案第8号 トイレ洋便化改修工事(東棟・西棟)及び東棟洗濯室洗面器修繕工事委託契約について

第4回	11月2日	5	2	報告第1号 令和3年度第3回理事会議事録の確認について 報告第2号 諸事業報告について 議案第1号 福祉サービスに関する苦情解決体制に関する第三者委員の選任について 議案第2号 社会福祉法人いいたて福祉会評議員選任・解任委員の選任について 議案第3号 西棟床暖房ボイラー修繕工事委託契約について 議案第4号 西棟居室エアコン更新工事委託契約について
第5回	令和4年1月24日	6	2	報告第1号 令和3年度第4回理事会議事録の確認について 報告第2号 諸事業報告について 案第1号 社会福祉法人いいたて福祉会理事候補者の推薦について 議案第2号 社会福祉法人いいたて福祉会評議員候補者の推薦について 議案第3号 社会福祉法人いいたて福祉会評議員の招集について 議案第4号 社会福祉法人いいたて福祉会評議員選任・解任委員の招集について 議案第5号 勤怠管理・勤務割作成システム等の購入契約の締結について
第6回	3月24日	6	2	報告第1号 令和3年度第5回理事会議事録の確認について 報告第2号 諸事業報告について 案第1号 令和3年度社会福祉法人いいたて福祉会収支補正予算について 案第2号 令和4年度社会福祉法人いいたて福祉会事業計画(案)について 案第3号 令和4年度社会福祉法人いいたて福祉会収支予算(案)について 案第4号 社会福祉法人いいたて福祉会就業規則の一部変更について 案第5号 社会福祉法人いいたて福祉会に就業する職員の就業時間等に関する細則の一部変更について 議案第6号 社会福祉法人いいたて福祉会育児・介護休業等に関する規則の一部変更について 議案第7号 社会福祉法人いいたて福祉会給与規則の一部変更について 議案第8号 社会福祉法人いいたて福祉会臨時雇用職員管理規則の一部変更について 議案第9号 特別養護老人ホームいいたてホーム設備機器保守点検委託契約について

(2) 評議員会の開催状況(定数7人)

回数	開催日	出席(人)		内 容
		評議員	監事	
定時	令和3年6月21日	6	2	報告第1号 令和2年度評議員会議事録の確認について 議案第1号 令和2年度社会福祉法人いいたて福祉会事業報告について 議案第2号 令和元年度社会福祉法人いいたて福祉会一般会計収支決算について 議案第3号 社会福祉充実残額の算定結果について 議案第4号 社会福祉法人いいたて福祉会理事の選任について 議案第5号 社会福祉法人いいたて福祉会監事の選任について
	令和4年2月7日	5	2	報告第1号 令和3年度定時評議員会議事録の確認について 議案第1号 社会福祉法人いいたて福祉会理事の選任について

(3) 監事会の開催状況(監事定数2人)

開催日	出席(人)	内 容
令和3年5月12日	監事 2名	令和2年度社会福祉法人いいたて福祉会事業報告について 令和2年度社会福祉法人いいたて福祉会一般会計収支決算について 令和2年度理事会及び評議員会の執行状況について
	講評	全体的に適正に処理されている旨の報告あり。

(4) 評議員選任・解任委員会の開催状況(定数3人)

開催日	出席(人)	内 容
令和3年6月8日	3	社会福祉法人いいたて福祉会評議員の選任について
令和4年2月7日	3	社会福祉法人いいたて福祉会評議員の選任について

・役員研修等

- 関係機関が主催する役員研修会に参加(令和3年度研修一覧のとおり)
- 県等主催の役員研修に参加(令和3年度研修一覧のとおり)

1. 基本方針について

- (1) 生活が家庭の延長と感じられる「居心地の良い」環境づくりに努め、必要としているケアを、その時に提供できるよう努めてきました。
- (2) 日々のケアが利用者の「自己決定」を基本に、多職種間との連携を図り、諦めないケアに取り組んできました。
- (3) 新型コロナ感染防止対策は、施設内に持ち込まないことを徹底し、職員一人ひとりが感染防止に努めてきました。
- (4) コロナ禍により、ご家族との時間が持てない状況にあっても、面会をガラス越しやリモート等で行えるようにすることで、家族との繋がりを支えてきました。

2. 具体的な取り組み

(1) 生活・環境面について

取組	具体的な内容
<p>1. 居心地の良い環境づくり (安らげる環境)</p>	<p>外出や交流が困難な中でも、生活の場が居心地良いと感じられる環境づくりに努めてきました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 居場所作り リビングや食卓、部屋等の使用目的を明確にすることでプライベートと交流の場との差別化を図ってきました。 ② 感染予防対策 出勤時の検温・手洗い・うがい・手指消毒・マスク着用を徹底（チェック表を活用）。また、共有の場所や手すり等を、適宜、消毒し感染予防に努めてきました。 ③ 室温・湿度の調整 エアコン、換気、床暖房、加湿器を活用し、夏期の室温は26～28℃、冬期は22～24度、湿度は40～50%に保ってきました。 ④ 臭いのない施設づくり 排泄物を新聞紙で包む処理と換気、口腔ケアを徹底。また、空気清浄機の活用により臭わない施設に努めてきました。 ⑤ 快適に休めるように 寝具を工夫し夏期はクールパット、冬期はボアシート・湯たんぼ・電気毛布を使用、快適に安眠できるようにしてきました。
<p>2. 家族との繋がりを大切にする</p>	<p>コロナ禍により、家族との繋がりが薄れないよう、生活の様子や面会等の促進を図ってきました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 近況報告 手紙や日常生活の写真を送付し近況を報告してきました。（年4回） ② リモート面会 11家族がリモートに登録、会話を楽しんでいました。 ③ ガラス越し面会 西棟玄関でガラス越しに年間通し対応してきました。 (回数は各家参照) ③ 対面面会（12月17日～1月9日の間、16家族が来所。） 事前に予約を受け、東棟に特別面会室を設け、クリアボード等を設置、

<p>3. 家庭的な雰囲気づくり</p>	<p>面会時間を 15 分に定め面会を実施したところ、家族から「声が聞こえるよ」と大変喜ばれていました。会場使用後は、その都度、消毒してきました。</p> <p>⑤ 連絡 体調の変化や医療的な連絡等については、その都度、看護師より連絡させて頂き、信頼関係を築いてきました。</p> <p>施設内でも四季が感じられるよう、季節の行事や食事、畑での野菜作りや花植等を行うことで、家庭の延長と感じられるよう努めてきました。</p> <p>① 畑作り 夏野菜を作り収穫ごとに調理し美味しく頂きました。</p> <p>② 手作業で季節を感じる だんごさし、柏餅作り、ワラビの灰汁抜き、枝豆取り、フキの皮むき等、昔馴染みの作業で季節を感じて頂きました。</p> <p>③ 生活感をあじわう 洗濯物を中庭に干すことで、洗剤の匂いや家庭的な雰囲気を感じてもらいました。</p> <p>④ 役割を持つ 食事の配膳、洗濯物たたみ、新聞たたみ等の役割を持つことで、遣り甲斐を見出してきました。</p> <p>⑤ みそ汁作り 毎週土曜日、職員と共に食材を刻むところから調理し、一緒に頂くことで楽しみを持って頂きました。</p> <p>⑥ 誕生会 コロナ禍により、家族の参加は難しいため、厨房手作りの希望するケーキでお祝いをしてきました。</p>
<p>4. 社会との繋がり</p>	<p>地域社会との繋がり計画を立てていましたが、新型コロナ感染が落ち着かず、外出支援や、村内こども園・小学生との交流等が行えませんでした。次年度は、コロナ禍が落ち着き安全性が図れた際は、地域社会との繋がりを図っていきたいと思います。</p>

(2) サービスの質の向上について

取組	具体的な内容
<p>1. 重度化ケア</p>	<p>① 看護職員・栄養士・厨房職員等の協力を得、日常の暮らしが安楽に過ごせるよう総合的なケアに取り組んできました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家会議（家内目標やケア内容の検討と見直しをしてきました。） ・ ケア会議（適宜、体調変化時に応じケア内容を見直ししてきました。） ・ ケアマネの専門的知識をフィードバックすることにより、より良いサービス計画を提供することができたと思います。 <p>② その人らしい最期を迎えられる（看取り）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大切な時間の支援について、本人やご家族と話し合いを持ちながら、悔いのない時を過ごせるよう総合的支援に努めてきました。 ・ 最期まで口から食べられる思いを大切に、好きな物を一口でも食べて頂くことができたと思います。

<p>2. 自立支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 排泄についての不快感を低減するため、特に皮膚トラブルに注意しながら排泄交換や体位交換を、きめ細かく提供することができたと思います。 • 身体の保清について、入浴形態をその日の体調に合わせて変更したり、常に看護師の協力を得ながら、清々しい入浴を提供することができたと思います。 • 口腔内の洗浄や喀痰除去等の清潔保持をすることで、二次的感染を防いできました。 • 寝具は肌触りの良い軽い物とし、好きな音楽をかけ、馴染みの職員の声掛けにより、孤独感に陥らないよう努めてきました。 <p>なかなか外出できない方のために、月2回のミニデイサービスを計画していましたが、コロナ禍の影響により、残念ながら継続実施することができませんでした。</p> <p>次年度は、状況を踏まえ、人数や開催場所・交流内容を検討しながら、生きがいや楽しみの場を増やしていきたいと思います。</p>
----------------	--

(3) 人材育成について

取組	具体的内容
<p>1. 職員育成</p>	<p>資格や専門性を身に付けられるよう、積極的に研修会に参加してきました。(コロナ禍により、オンライン研修が主となりました)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 介護初任者研修への参加(2人参加) • 認知症研修(1人参加) • ユニットリーダー研修(前期・後期 2人参加) • 介護職員中堅者研修(1人参加) • 安全担当者研修(2人参加) • 災害時事業継続研修(2人参加) • 施設内外の研修や、委員会の内容を全介護職へフィードバック。 <p>(※ 詳細内容は研修一覧による。)</p>
<p>2. 会議、委員会の充実</p>	<p>職員は委員会に所属し、専門的知識を得、より具体的なケアに取り組み改善や維持向上に繋げてきました。</p> <p>(1) 委員会</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 食事・口腔ケア(給食)委員会(月1回開催) <ul style="list-style-type: none"> 口腔内の衛生は勿論、食事を美味しく食べて頂くための食事形態についても見直しをしてきました。 ② 事故防止対策及び感染防止委員会(隔月開催) <ul style="list-style-type: none"> リスクマネジメントと感染防止に力を入れ、生活が安全に継続できるように日頃の業務やケアの見直し、また、アクシデントに対する意識も高めることで事故防止に繋げ、できるだけ安全な中で過ごせるよう取り組んできました。 ③ 褥瘡・褥瘡防止対策委員会(隔月開催) <ul style="list-style-type: none"> 褥瘡予防対策を継続しながら、ケアの方法についても定期的な見直しや、新しい介助方法等の技術等を取り組み、ケアの向上に努めてきました。

	<p>④ 設備・環境委員会（隔月開催） 施設内の環境整備や福祉用具・備品等の整備管理を行ってきました。また、災害時でもケアが継続出来るよう備品等の整備もしてきました。また、3月11日は防災の日とし、救急の勉強会や備蓄品の確認や発電機の作動、マニュアルの確認も行ってきました。</p> <p>⑤ 身体拘束・虐待防止委員会（月1回開催） 施設内で身体拘束や虐待が行われていないかを定期的に確認し、安心してケアが受けられる生活環境を提供してきました。</p> <p>(2) 会議</p> <p>① 家長会議の充実（月1回開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家長会議の開催目的を徹底。また、お互いの情報交換や意見、相談ができる場にしてきました。 ・ 一方、リーダーとしての自覚を持てるよう、最新の介護情報はもとより制度や運営等も共有、常に向上心を持ってケアに取り組めるよう意識を高めてきました。 <p>② ケア会議の充実（随時開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度から、ケアマネジャーが専属従事することとなり、ケアプランの見直しやニーズの発掘、サービス計画において、よりスピード感が出てきたと思います。 <p>③ 家内会議（月1回開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ケアについての情報共有や、家内職員の繋がり、入居者に対する想い等の意見を出し合ってきました。
--	--

3. 月別入退居者数

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入居者数			1人	3人	4人	1人	2人	1人				3人	15人
退居者数	1人		5人	2人		2人	2人		1人	1人			14人
入居者数	42人	42人	38人	39人	43人	42人	42人	43人	42人	41人	41人	44人	

4. 年間の要介護度状況（入居者実人員 男性8人、女性50人）

要介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
男性	0人	0人	2人	2人	4人
女性	0人	0人	13人	22人	15人
介護度比率	0%	0%	25.9%	41.4%	32.7%

5. 年間行事開催

（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

月日	主な内容	
4/8.15.22	ミニデイ	自立支援を目的に感染予防をしながら、くつろぎの家を利用し手作業等が出来る交流の場を設けました。敷地内の桜の花を見ながら、昼食のちらし寿司を作りながら花見気分を味わいました。
5.9	母の日	女性利用者へ職員手作りのチューリップの花をプレゼントしました。昼食は、行事食で母の日に感謝し美味しく頂きました。
5.6、13	柏餅作り	西棟は6日、北棟は13日に柏餅をご利用者と一緒に作りをしました。お餅系のおやつは大好評で、蒸しあがった柏餅を嬉しそうに頬張っていました。
6.4～7	しょうぶ湯	個浴や機械浴時に、菖蒲を浮かべ、昔ながらの季節感や温泉浴を味わって頂きました。

6.10、24	おやつ作り	西棟は10日、北棟は24日にホールで饅頭を作りました。前回同様、ご利用者が食べたいおやつに取り組みました。餡入りの饅頭が蒸しあがるのが待ち遠しかったようで、何回も覗いていました。
7.7	七夕	フロアや各棟ホールに、竹を飾り各々の願い事を書いた短冊を飾りました。短冊には「健康でいられますように」「また美味しものが食べたい」等、願い事は様々でしたが、「コロナ感染が終息」の願いは切実でした。
9.19	敬老会	各家で厨房手作りの祝膳を頂きながら、昔話に花が咲いていました。
11.28	芋煮作り	手作業の出来る方が増えたことで、職員と一緒に野菜を切り、芋煮を作ったり、五目ご飯作りやおにぎりも握りました。出来上がった料理は、鍋を囲みながら、皆で楽しく美味しく頂きました。
11.29~ 12.1 12.24	お風呂の日	お風呂にゆずを浮かべ、香りと季節感を楽しみました。
12.24	クリスマス会	西・北棟ホールに分かれ行いました。ご利用者のハンドベルや歌の披露があり、とても盛り上がりました。昼食は厨房からの行事食で各家に戻り美味しく頂きました。
12.28	餅つき	年末の餅つきも、飛沫感染予防の観点から規模を小さくし、お供え用の餅だけを杵でつき1年を締めくくりました。
1.10	百歳賀寿	田村マツヨさんの百寿祝いをしました。今回も感染防止対策のため、東棟で賀寿表彰の式典を行い、その後、西棟ホールにおいて百寿セレモニーを行いました。また、福祉会から指輪のプレゼントに満面の笑みで喜ばれ、また、職員の大黒舞や花笠音頭の披露に目を細め、手作りのケーキや祝膳を皆で美味しくいただきました。
1.13	だんごさし	お正月恒例の行事「だんごさし」を行いました。手作業が出来る方も多く、慣れた手付きで一連の作業を短時間でやり終えました。また、皆で丸めた団子の一部を、みたらして美味しく頂きました。
2.3	節分・豆まき	今年は寅年生まれのご利用者や職員が多く、賑やかに各ユニットを回り、鬼に扮した職員に向かって豆をぶつけていました。
3.3	ひなまつり	ひな壇の前で、着物をまとい記念撮影。いつもとは違うおすまし顔でした。昼食は厨房職員が握ったお寿司とあさり汁を笑顔で美味しそうに頬張っていました。
毎週日曜日／毎週木曜日		手作りおやつで喫茶タイム／音楽療法
月1回（月末）		避難訓練を実施

1. 家目標と方針について

(1) 利用者の残存機能の維持に努める。

日常生活が出来るだけ維持できるよう、簡単な機能訓練をはじめ、美味しい食事やゆっくり排泄、のんびり入浴のケア取り組んできました。

(2) 日々穏やかに安心して過ごせるよう、不安を助長させないケアを行ってきました。

認知症のある方については、落ち着いて過ごせるよう、肯定的に応じ、また、馴染みのある畑作業で野菜育て、収穫した野菜を美味しく頂き、洗濯物たたみや新聞折りなどの役割を提供することで、充実した生活を送って頂いています。

更に、何か一つのこと集中して取り組める時間をつくることで、落ち着いて生活できる環境に取り組んできました。

2. 入居者の状況

① 入居者

(R4.3.31 現在)

入居者数	8人	最高齢者	106歳	平均年齢	91.2歳
------	----	------	------	------	-------

② 要介護度

要介護度	要介護3	要介護4	要介護5	介護度平均
人数	7人	1人	0人	3.1

③ 認知については、軽度が3人、他5人については中度～重度となっています。

3. 具体的内容について

(1)生活面	<p>① コロナ禍の影響で生活リズムが崩れてしまい、外出（外食や買い物等）や家族との面会が思うようにいきませんでした。</p> <p>② 認知症の方に対しては、声掛けの大きさや言葉に注意し、介助方法も工夫しながら、気持ちに寄り添うことで、結果、日常生活が落ち着いて過ごせていました。</p> <p>③ 日々、状態の変化が著しいため、口頭での申し送りの他、漏れのないよう「申し送りノート」も活用しながら情報の共有を図り、ミスがでないようケアに当たってきました。また、多職種との連携を深めることで、より良いケアの継続が展開できてきたと思います。今後も「報告・連絡・相談」を怠らず、誰が担当しても同じケアが提供出来るようにしていきたいと思います。</p> <p>④ 面会状況 延面会者人数 20人 面会者最多回数 6回</p>
(2)食事	<p>① 一緒に料理をする事で、現存能力を引き出すと共に、満足感や五感を刺激し、「食」への楽しみを感じて頂きました。</p> <p>夏場は、畑で栽培したトマト・キュウリ・ナスなどを収穫し、一緒に調理して食べました。また、毎週土曜日の味噌汁づくりは、具材の刻みや味見をして頂き、皆で美味しく頂きました。</p> <p>② 誤嚥予防のため、スムーズに飲み込める環境を整え、また、食前体操も行った。</p>

	<p>てきました。(その日の状況によって食前体操ができない場合は、会話を多用しながら“口を動かす”環境づくりに努めてきました。)</p> <p>③ 体調不良や食形態の変化のある方に対しては、その都度、ケア会議などで食事内容を検討して頂き、一人ひとりのニーズに合わせた食事を提供することができたと思います。</p> <p>④ 食事形態状況 食事形態： 軟食4人、キザミ食2人、ゼリー食1人、経管栄養1人 食事介助： 全介助 2人、一部介助 1人</p>
(3)入浴	<p>① 状態の変化に合わせ入浴方法を検討、また、皮膚トラブルが起きないように、安全・安楽に入浴出来るよう細心の注意を払いながら努めてきました。</p> <p>② 拒否がある方に対しては、スムーズに気分良く入れるような時間帯を選択し、また、言葉掛けによる雰囲気作りや環境作りに努め、場合によっては午前浴も行ってきました。</p> <p>③ 個々に合った保湿クリームを使用し、スキンケアに努めてきました。</p> <p>④ 年間入浴回数 延回数： 個別浴 681回、機械浴 76回</p>
(4)排泄	<p>① 個々の尿量、尿臭に合わせパットを選定することで、皮膚の悪化防止と消臭対策に努めてきました。(個々の尿測を1週間行い、肌の状態、尿量に合わせてパットを選定。尿臭の強い方は、陰部洗浄を行い、こまめに衣類洗濯等をして尿臭対策を行ってきました。)</p> <p>② 尿臭や尿色の観察を怠らず、異常が見られた時は、即、看護師に報告し対応して頂くことで体調管理に努めてきました。また、尿カテーテル使用者については、尿測時間を決め記録を忘れないようにしてきました。</p> <p>③ 排便コントロールについては、個々にあった調整や、トイレで快便出来るよう、排便チェック表や記録を基に対応することで、上手く行ったと思います。</p> <p>④ 排泄介助内訳 トイレ介助7人、オムツ交換 1人 オムツ使用からトイレ介助へ移行した人数 1人</p>

1. 家目標と方針について

- (1) 入居時の実態調査を基に従来の生活スタイルが継続出来るよう環境づくりに努めてきました。個々の状態に合わせ“今、必要とされるケア”とは何かを考え、家会議等で職員が積極的に意見を出し合い、ケアに反映してきました。
- (2) 見守りが必要な方に対し、家内だけでは対応が困難な時、日勤者の協力を得、安全を確保しながらケアにあたってきました。
- (3) 難聴な方とのコミュニケーションは難しく、声掛けのタイミングと行動が上手く咬み合わない時もあり混乱や不安を与えてしまいました。今後、ジェスチャーや理解しやすい言葉で伝える等、工夫して行きたいと思えます。
- (4) 状態変化を見逃さず、早目の対応をしてきたことから、重症化を防げたと思えます。今後も継続観察を怠らないようにすると共に、少しの気付きでも大切に行きたいと思えます。
- (5) 情報共有では、「申し送りノート」の記入方法を工夫し、誰でも分かり易く、翌日の勤務者に伝えることができました。

2. 入居者の状況

(R4.3.31 日現在)

① 入居者

入居者数	7人	最高齢者	102歳	平均年齢	90歳
------	----	------	------	------	-----

② 要介護度

要介護度	要介護3	要介護4	要介護5	介護度平均
人数	3人	1人	3人	4.0

③ 認知については、軽度が 1人、他6人については中度～重度となっています。

3. 具体的内容について

(1)生活面	<p>① 感染予防対策では、加湿や換気、室温を管理し体調管理に努める事が出来ました。また、コロナ禍により交流制限があるなかでも、感染に留意いしながら家内でのレクを実施。利用者の笑顔が引き出せ、リフレッシュにも繋がったと思えます。</p> <p>② 家族との連絡では、日常用品の必要な物や、誕生日の件について担当職員が責任を持って行うことにより、家族の方との繋がりを大切にしてきました。</p> <p>③ 終末期のケアでは、3人の方を看取りました。その都度、看護師から家族の方に状態の説明し、足を運んで頂いたり、最後の対面面会等ができたことは、とても良かったと思えます。(家族の方に大変感謝されました。)</p> <p>④ 認知症のケアについて、日々の変化が著しく、対応方法もスムーズにいかず、職員の一方向的な声掛けになっていたことは反省するところです。もっと認知症の方の思いを大切に寄り添っていかねばならないと感じました。次年度は、認知症の方に対して、もっと理解を深めケアに取り組んでいきたいと思えます。</p> <p>⑤ 面会状況</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>延面会者人数</td> <td>48人</td> </tr> <tr> <td>面会者最多回数</td> <td>24回</td> </tr> </table>	延面会者人数	48人	面会者最多回数	24回
延面会者人数	48人				
面会者最多回数	24回				

<p>(2) 食事</p>	<p>① 食事形態や摂取状況について、家会議や多職種間で話し合い、状態に合わせ食べ物を提供することで、安全な食事が出来たと思います。今後も、覚醒の状況や、摂取状況に注視して行きたいと思います。</p> <p>② 食事を楽しく摂って頂くための一つの方法として、席替えや配膳方法等に工夫してきました。結果、皆、ゆったりと美味しく頂けたのではないかと思います。</p> <p>③ 食事形態状況 食事形態： 軟食 4人、 キザミ食 1人、 ソフト食 2人 食事介助： 全介助 2人、 一部介助 3人</p>
<p>(3) 入浴</p>	<p>① 皮膚トラブルを起こし易い方に対しては、リフト浴を中止し、職員3人の移乗介助に切り替え、皮膚の悪化防止に繋げてきました。また、腕や手等に内出血が出来易い方への対応として、試行錯誤した結果、エアークッションを使用する事で内出血防止ができました。</p> <p>② 入浴拒否が見られた方については、時間や入浴日をずらす事で、臨機応変に対応することが出来ました。</p> <p>③ 年間入浴回数 延回数： 個別浴 210回、 機械浴 431回</p>
<p>(4) 排泄</p>	<p>① 快適な排便を促すために、医務との連携でコントロールを行うことで、不快にならず排泄できるようになったと思います。</p> <p>② 排尿量等に合わせたパット選定が出来ました。(夜間帯の尿量調査等については、他の家職員からの協力を得、その方に合ったパットの見直しに繋げることが出来ました。今後も職員間において気兼ねなくアドバイスし合える関係にして行きたいと思います。)</p> <p>③ 排泄介助内訳 トイレ介助 5人、 オムツ交換 2人</p>

1. 家目標と方針について

- (1) 安心して生活して頂けるよう、常に状態把握に努め、ニーズに添ったケアに取り組んできました。
- (2) 意見交換や申し送りの徹底、多職種との連携により、小さな変化にも見逃さず、業務優先のケアにならないようにしてきました。

2. 入居者の状況

(R4.3.31 現在)

① 入居者

入居者数	7人	最高齢者	101歳	平均年齢	88歳
------	----	------	------	------	-----

② 要介護度

要介護度	要介護3	要介護4	要介護5	介護度平均
人数	2人	3人	2人	4.0

③ 認知については、軽度が4人、他3人については中度～重度となっています。

3. 具体的内容について

(1)生活面	<ul style="list-style-type: none"> ① ラジオ体操やパタカラ体操に取り組み、習慣として行うことが出来ました。 ② コロナ禍により、交流に制限があったため、ユニット内でカラオケやビーチボールで運動を行い健康増進に取り組んできました。 ③ 野菜を育て、収穫し、家内で調理して美味しく味わうことが出来ました。 ④ 生活の役割として、お手伝いができる方を対象に、洗濯たたみや配膳をお願いすることで、習慣となり生きがいに繋がっていました。 ⑤ 誕生会は、職員の大黒舞やカラオケを披露することで、楽しくお祝いすることが出来ました。 ⑥ 感染予防の観点から、利用者や職員の手洗い・マスク着用・手指消毒を必要に応じ徹底してきました。 ⑦ フロアー内やテーブル、玄関前に季節毎の生花を飾ることによって、季節感を感じて頂けたことと思います。 ⑧ 多くを居室で過ごされている方に対し、声掛けをこまめに行い、音楽やテレビ等を活用し、孤独にならないよう努めてきました。また、時には、無理のない離床を勧め、皆と一緒に過ごす時間も設けることが出来たと思います。 ⑨ 安楽に就寝して頂くようパジャマに着替えて休んで頂いています。 ⑩ 面会状況 <table style="margin-left: 20px; border: none;"> <tr> <td>延面会者人数</td> <td>45人</td> </tr> <tr> <td>面会者最多回数</td> <td>23回</td> </tr> </table> 	延面会者人数	45人	面会者最多回数	23回
延面会者人数	45人				
面会者最多回数	23回				
(2)食事	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎週土曜日の味噌汁作りでは、一緒に材料を刻み、味見もしてもらうことで、良い雰囲気の中継続することが出来ていると思います。 ② 嗜好や状態変化の把握、制限食の理解、配膳の工夫、食器の選択まで踏み込むことで、楽しく満足いくような食事提供ができたと思います。 ③ 食事形態状況 				

	<p>食事形態： 軟食 4人、 キザミ食 1人、 経管栄養者 2人 食事介助： 一部介助 1人、</p>
(3)入浴	<p>① 機械浴者が増えても流れ作業にならないよう、時間に余裕を持ち、「長く入っていたい」という思いを尊重し対応してきました。また、楽しく入浴して頂くため、たわいもない会話など多く取り入れてきました。</p> <p>② 内出血等が出来易い方への対応として、移乗方法やシャワーチェアを選択することにより、予防に繋がっていると思います。</p> <p>③ 乾燥性皮膚トラブルがある方については、保湿クリームを選定、塗布することにより安眠確保に繋がってきました。</p> <p>④ 「熱めのお湯が好き」・「長湯がいい」等の意見に応じれるよう、その日の体調に合わせて対応してきました。</p> <p>⑤ 年間入浴回数 延回数： 個別浴 188回、 機械浴 370回</p>
(4)排泄	<p>① 尿臭対策では、通常対策の他、リネン交換を毎回行う事で臭いの軽減が図られていたと思います。今後も個々の消臭の原因を確認しながら対策して行きたいと思います。</p> <p>② 尿量に合ったパットの見直しにより、皮膚トラブルを無くすことが出来ました。</p> <p>③ プライバシーや自尊心を傷つけないよう、優しい声かけでケアにあたってきたことにより落ち着いて排泄行為が出来ていました。</p> <p>④ 紙オムツやリハビリパンツ使用の方を、トイレに誘導し、排泄行為を促すことで、習慣となり布パンツ（パット使用）へ移行することができました。</p> <p>⑤ 排泄介助内訳 トイレ介助 5人、 オムツ交換 2人 オムツ使用からトイレ介助へ移行した人数 3人</p>

1. 家目標と方針について

- (1) 一人では難しい事でも、家職員5人が協力し合い情報を共有することで、小さな変化にも気づけ、寄り添ったケアに繋がられたと思います。今後も多職種間との情報共有を大切にしながら、職員間では「知らなかった」と言うことがないよう、報連相を念頭に努めていきたいと思います。
- (2) 各種書類関係の記録等において、その大事さを肌で感じることで意識が高まり、その都度上手くまとめられたと思います。
- (3) 認知症の進行や体調の変化等により、意思疎通や介助方法が難しくなってきた場合でも、一人ひとりに合わせたケアに心掛けて来ました。

2. 入居者の状況

(R4.3.31 日現在)

① 入居者

入居者数	7人	最高齢者	96歳	平均年齢	90歳
------	----	------	-----	------	-----

② 要介護度

要介護度	要介護3	要介護4	要介護5	介護度平均
人数	2人	3人	2人	4.0

- ③ 認知については、軽度が1人、他6人については中度～重度となっています。

3. 具体的内容について

(1)生活面	<p>① 看取りにて2人の方のお見送りをしました。最後まで食べ、拒否ができ、笑顔で会話できる方でした。終末期に於いていつも考えさせられるのは「口から食べる事の意味、凄さ」です。本来なら経口摂取を受け付けられない体であっても、本人が「食べたい」との思いに応えようとするのが当ホームです。医務、栄養士をはじめとした多職種の「想い」と、利用者の「望み」が上手くケアに繋が、ケアにあたる事が出来ました。</p> <p>② 家会議において、その人らしさは何なのかをアセスメントし、機能維持のため、多職種からの助言を頂き、出来ない事ばかりでなく出来る事を考え、その人が望む暮らしに近づけるよう支援してきました。 次年度はどの場面（介助が難しい・苦手な場面）においても、それを一人で抱え込まず、相談することでスキルアップを目指していきたいと思ひます。</p> <p>③ 認知症ケアについて、その行動を分かっている、焦りや心の余裕のなさからヒヤリハット等が何度かありました。具体的な解決策を出せるよう理解を深める必要があるため、今後も積極的に時間を設け職員間で話し合っていきたいと思ひます。</p> <p>④ 面会状況 延面会者人数 55人 面会者最多回数 10回</p>
--------	--

<p>(2) 食事</p>	<p>① 食器や自助具、食事環境を整えることについては概ね達成できました。次年度も食前体操や椅子の高さ調整、姿勢、ポジショニングに気を留め、安全に食事ができるようにしていきます。</p> <p>② 家料理は思うように行えなかったものの、畑で収穫した野菜で、その都度、簡単に調理し旬の味を楽しんで頂けたことと思います。</p> <p>③ 体調変化により、その日に食事が出来なかった方でも、翌日、工夫により食べて頂くと、表情がパッと明るく活気が戻る事から、口から食べる事の大切さを改めて教えて頂きました。</p> <p>④ 食事形態状況 食事形態： 軟食 3人、キザミ食 2人、ゼリー食 1人、経管栄養者 1人 食事介助： 全介助 1人、一部介助 3人</p>
<p>(3) 入浴</p>	<p>① 好きなお湯加減と音楽を流すなど、ゆっくりと入浴してもらえる環境をつくってきました。</p> <p>② 関節拘縮が強い方の洗身時は、洗身タオルを手袋タイプに変える等、痛い思いの軽減に努めながら清潔を保つことに努めてきました。</p> <p>③ 入浴拒否がある方には、その日の体調や雰囲気に合わせて、タイミングを図りながら声掛けすることで、上手く入浴して頂くことができました。今後も一人ひとりに合わせ対応していけるよう努めていきます。</p> <p>④ 年間入浴回数 延回数： 個別浴 450回、機械浴 180回</p>
<p>(4) 排泄</p>	<p>① 日々の排便周期を把握しながら排便コントロールも行ってきました。利用者がスッキリ感を得るため、常に医務と連携し、負担のかからない介助ができていたと思います。</p> <p>② 排泄用品（パットやパンツ）の選定等については、蒸れない快適さが維持できるものを決めてきました。今後も利用者と職員の両方の為に、お互いが助言できる関係でありたいと思います。</p> <p>③ 排泄介助内訳 トイレ介助 5人、オムツ交換 2人</p>

1. 家目標と方針について

- (1) 意思を尊重し、本人らしく過ごして頂けるよう体調の変化に合わせたケアを、日頃から心がけてきました。居室で過ごすことが多い方に対しては、外気浴や日光浴等を行ない、気分転換を図るようにしてきましたが、コロナ禍により数多く行うことが出来ませんでした。
- (2) 意思表示がはっきりできる方の意思を尊重し、個々にあった居場所づくりや、テレビ・音楽鑑賞・編み物がゆったりとできる環境を整えてきました。

2. 入居者の状況

(R4.3.31 現在)

① 入居者

入居者数	7人	最高齢者	95歳	平均年齢	93歳
------	----	------	-----	------	-----

② 要介護度

要介護度	要介護3	要介護4	要介護5	介護度平均
人数	3人	3人	1人	3.7

- ③ 認知については、軽度が1人、他6人については中度～重度となっています。

3. 具体的内容について

(1)生活面	<p>① 重度化と体調管理について、下肢の循環不全や体調悪化によりベッド上で過ごされる方が複数います。そのため生活感を感じて頂けるよう、ベッドをフロアに移動したり、他の利用者の声が聞こえるようにしたり、孤独にならないようにしてきました。また、食事中に意識消失する方もいることから、日頃より状態の変化を見逃さないように心がけてきました。急変時においても医務の協力を得、事故等を未然に防ぐことが出来ました。</p> <p>② 困難なケースや困難へのチャレンジについて、諦めず達成感に向け、職員同士、同じ目標に向かって協力することで、皆が一丸になることが出来たと思います。</p> <p>③ 看取りについて、3人の方のお見送りをしました。その方達は最期まで口から摂取することもでき、声かけにもしっかりと意思表示をされていた方でした。利用者の意思を汲み取り最期までその方らしく生活して頂けるよう、多職種間で協力しながらケアにあたってきました。</p> <p>④ 認知症ケアについて、知識不足により、声かけや対応に戸惑う場面が見られました。もっと個々の性格や言動、行動を理解し介護にあたるようにしたいと思います。</p> <p>⑤ 面会状況</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>延面会者人数</td> <td>44人</td> </tr> <tr> <td>面会者最多回数</td> <td>8回</td> </tr> </table>	延面会者人数	44人	面会者最多回数	8回
延面会者人数	44人				
面会者最多回数	8回				
(2)食事	<p>① 「どうしたら美味しく食べられるのか・食べる意欲が沸くのか」を考え、起床時間に合わせた食事を提供してきました。また、食事にかかる時間を多くとることで、ゆっくりとした食事時間となっていました。介助を要する方でも職員同士が声を掛け合い、時間をかけ無理なく食事介助ができたと思います。</p>				

	<p>② ベッド上で過ごされている方も、その日の体調に合わせ、リクライニング移り、他の利用者と一緒に食事をして頂くことができました。</p> <p>③ 毎週土曜日のみそ汁作りは一緒に行えましたが、家料理は殆ど行えませんでした。次年度は季節毎に行えるよう計画を立て実施したいと思います。</p> <p>④ 食事形態状況 食事形態： 軟食3人、キザミ食2人、ソフト食1人、ゼリー食1人 食事介助： 全介助2人、一部介助1人</p>
(3)入浴	<p>① 職員2人対応の入浴介助や機械浴の入浴者が多くなってきたものの、利用者の体調や体力面等を考え、適宜、入浴方法を検討し、負担なく入浴して頂けたものと思います。今後も1人での対応が困難な方を、機械浴利用へと云う考え方でなく、2人対応で、ゆっくりと入浴できる方法はないかとの考えを持ってるようにして行きたいと思います。</p> <p>② 年間入浴回数 延回数 個別浴 167回、 機械浴 410回</p>
(4)排泄	<p>① 排便のコントロールが安定しない方もいましたが、医務との連携により個々にあった方法で排便を促し、介助にてトイレで行うことができました。</p> <p>② 一人ひとりのパットのあて方や排泄交換時間等、情報を共有しケアにあたることで、皮膚トラブルを未然に防ぐことができました。次年度は、もっと詳しい排泄パターンや量なども把握し、より利用者に添ったケアを提供できる行ようにしていきたいと思います。</p> <p>③ 排泄介助内訳 トイレ介助 4人、 オムツ交換 3人</p>

1. 家目標と方針について

(1) その方らしい生活とは何かを考え取り組んできました。

意思疎通が困難な方の表情や仕草で、何をしたいのかを判断することは難しいものの、様々な情報を共有することで、少しずつ求めていることが見えはじめ、応えることができたとき、利用者の笑顔が見られ、もっと笑顔を見たい。もっと笑顔を引き出すケアをしていきたいと実感しました。

(2) 体調に合わせた介助について、多職種と連携しながら、申し送りや助言等を徹底することで、日々のケアに活かされていたと思います。今後もより良いケアの提供ため細やかな意見交換を継続して行きたいと思います。

(3) コロナ禍により、面会制限となったものの、家族の方には誕生会の連絡や近況報告を行ってきました。百寿のお祝いも、感染対策に万全を期し、皆さんの協力で記憶に残るような時を過ごせ、とても良かったと思います。

2. 入居者の状況

(R4.3.31 現在)

① 入居者

入居者数	8 人	最高齢者	101 歳	平均年齢	91 歳
------	-----	------	-------	------	------

② 要介護度

要介護度	要介護3	要介護4	要介護5	介護度平均
人数	1 人	4 人	3 人	4.3

③ 認知については、軽度が1人、他7人については中度～重度となっています。

3. 具体的内容について

(1)生活面	<p>① 一人ひとりへの関わり合いについては、時間を見つけ適宜行ってきました。</p> <p>② コロナ禍で全体レクや行事は出来なかったことから、次年度は家内で出来る範囲でレク等を考えて行きたいと思います。</p> <p>③ 101歳の方が2人、100歳を迎えた方が1人と、超高齢ユニットですが、ホーム全体で小さくとも記憶にのこるようなお祝いが出来たことは大変嬉しい出来事でした。</p> <p>④ 面会状況 延面会者人数 45人 面会者最多回数 12回</p>
(2)食事	<p>① 食前のパタカラ体操や口腔マッサージは、時間に追われ出来ない事が多かったため、今後、口腔機能を維持していくため食前体操に力を入れていきます。</p> <p>② 食べたい気持ちを大切に、食欲のない方に対しては、雰囲気づくりや配膳を工夫しながら一口でも多く食べて頂けるよう努めてきました。</p> <p>③ 体調に合わせた食事形態、量、姿勢、義歯等、食事摂取に関する事に対し、家会議等で話し合い、随時、見直しを行い誤嚥防止に努めてきました。</p> <p>④ 食事形態状況 食事形態： 軟食2人、キザミ食4人、ソフト食1人、ゼリー食1人</p>

	食事介助： 全介助2人、一部介助4人
(3)入浴	<p>① 羞恥心に配慮しながら、且つ、1人での介助が困難な場合は無理せず2人介助で行い安全面にも配慮してきました。また、体調変化に合わせ介護用品や入浴形態の見直しも随時行ってきました。</p> <p>② 入浴中に音楽を流し、ゆったりとした入浴に心掛けてきました。</p> <p>③ 個々に合った入浴剤やボディクリーム等を使用し、保湿に努め皮膚トラブルを防いできました。</p> <p>④ 年に2回、菖蒲湯やゆず湯にして入浴の楽しさを提供してきました。</p> <p>⑤ 年間入浴回数 延回数： 個別浴 470回、 機械浴 245回</p>
(4)排泄	<p>① 立位困難な方には2人介助で移乗を行い、また、トイレに座っている時間を一人ひとりに合わせケアしてきたことにより、快適な排便に繋げることができたと思います。今後も看護師と相談しながら、排泄介助に取り組んでいきたいと思っています。</p> <p>② 個々の排泄時間に合わせた介助や、その方に合ったパットを選定し提供することで、未然に皮膚トラブルを防ぐ事ができたと思います。</p> <p>③ 消臭対策は、気付きが大切であり、原因を見つけ即対応することで、良い環境のもと過ごせたのではないかと思います。</p> <p>④ 排泄介助内訳 トイレ介助 7人、 オムツ交換 1人</p>

令和3年度 いいたてホーム医務室事業報告書

1. 年間目標について

持病があっても健やかで快適な日常生活が送れ、一職員として『いつもと違う』と云うことに気付ける人間性と専門性を磨けるような環境を目指し努めてきました。

また、新型コロナウイルスについては、感染拡大防止のための留意点について発せられる通知等を収集し、知り得た情報を適宜現場に周知、実践してきました。

終末期においては、多職種間との連携・協働体制を深め必要とされる知識・技術について共に学習し、最期まで寄り添い支えてこれたと自負しております。

更に、入居者のみならず、職員の健康管理にも留意し、定期健診は基より、個別の相談などにも適宜対応してきました。

2. 利用者及び職員の健康管理について

健康管理について (入居者)	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 健康診断 令和3年7月12日 35人健診(うち有所見者31人) ➢ 入居者の新型コロナ、インフルエンザ罹患者はゼロであった。面会については、県、厚労省の指針に基づきその都度制限をかけてきた。
職員の体調管理について	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 介護職員の平均年齢も高く、柔軟性と筋力低下が目立ち、体調不良を訴える職員が目立っています。 ➢ 職員のインフルエンザ罹患者はなし。新型コロナについては、1人の濃厚接触者が出たが、これまでの知識を生かしたことで感染には至りませんでした。(2週間の自宅待機にてPCR検査陰性を確認し復帰している。) ➢ 濃厚接触者の疑いがある職員については、出勤前に抗原検査キットにて検査。陰性を確認後出勤としたケースは6件。 ➢ 腰痛対策については、予防法と介護技術の修得及び、福祉用具の購入(個人購入も含め)し、腰部にかかる負担軽減に努めてきました。
健康診断について (職員)	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 健康診断1回目 令和3年7月12日 39人 2回目(夜勤に従事する職員のみ) 令和4年1月27日 22人 共に検診率100%(施設外での健診を受けた職員については結果の写しを医務室管理。) ➢ 職員の3分の1が再雇用となっています。ついではその殆どが何らかの慢性疾患があり、内服薬の処方を受けています。他、それぞれ指摘された事項についての相談と病院受診の必要性を説き、対応しています。 ➢ 腰痛検査(年2回)については問診票で調査。半数近くは接骨院などに通院しているのが実情。 “総合的に心配なしと判断”と云う結果が殆どでした。 ➢ 急性腰痛症、体調不良にて自宅療養を余儀なくされた職員が3人いましたが、医療機関の定めた休養を経て復帰しています。 また、急性腎盂腎炎にて1人の職員が入院加療を経て復帰しています。
健康教育について	<ul style="list-style-type: none"> ➢ コロナ渦ではあったものの、オンライン研修のほか、感染予防に努めたうえで外部の研修にも参加できました。 ➢ 自身の体調管理については個別に相談を受けるなど、健康に関する関心を高めてもらえるよう努めてきました。 ➢ 感染症委員会には固定した看護師が就き、標準予防策(フルPPE)、ゾーニング等の演習を行ってきました。
受診について	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 救急車搬送は1件、介護と看護間の連携と情報を共有することで、比較的速やかな対応ができました。(手遅れという状態は避けられました)

	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 入居者の骨折という事故が1件ありました。高齢に加え、慢性疾患があることでのリスクについて、専門職として提示してきました。 ➤ 重症度の高い利用者についても主治医の指示の下、家族への連絡を密にするなど信頼関係を築くことができましたと思います。 ➤ 診療については、いいたてクリニックから毎週火曜日に回診と定時薬の処方を受けています。慢性疾患のみならず、臨時薬や点滴の処方もあり、施設内で寛解できたことは何よりでした。
--	---

3. 褥瘡対策

皮膚トラブルの予防	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 早期発見の重要性を周知する。また、速やかな報告が重度化を防ぐことに繋がることも付け加え指示してきました。 ➤ 皮膚トラブルがもたらす二次的疾患の特性については、各家会議に参加することで知識を広めることができました。 ➤ 皮膚の状態を健やかにするため、セラミド入り乳液である『キュレル』及び皮膚の状態に合わせベビーオイル又はアズノール軟膏を個別購入し対応してきました。 ➤ ムートン・ロンボクッションを始めとする体圧分散用具の導入をしてきたことで終末期に於いても褥瘡はゼロでした。 ➤ 栄養の大事さ、経口摂取がもたらす効果については、適宜、ケア会議などで話し合い、関心を深めてきました。 ➤ 皮下出血し易い薬を処方されているか否かについて周知し、皮膚に与える影響についても指示してきました。 ➤ 看護師間で検討し、保護剤や被覆材の選択については互いの情報を共有するに留まったことから、次年度は開催される勉強会などに積極的に取り組んでいきたいと思えます。
-----------	---

4. 終末期ケア

看取りについて	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 「慣れ親しんだホームで最期を」と希望する入居者や家族が多く、12人の方が施設内の自室で永眠され、また、入院中に亡くなられた方は1人でした。 ➤ コロナ渦で面会制限を強いられる中、最期の面会だけは可能としてきました。一人で逝かせたくないという職員の想いからでもありました。そして、できるだけ悔いが残らないように配慮することで、家族との信頼関係を継続できたものと思えます。 ➤ 終末期を考慮し、事務・厨房・介護・看護の全スタッフで関わることができチームとして纏まっていると感じます。 ➤ かかりつけ医であるあづま脳神経外科病院には、毎週火曜日の定期診療に加え、深夜早朝にも拘わらず対応して頂き、最期の確認と家族への説明をして頂き感謝の意に堪えません。
---------	--

5. その他

(1) 新型コロナウイルスワクチン接種状況

1回目		2回目		3回目	
4/2、4/28	入居者 40人 職員 50人	5/18、5/20	入居者 39人 職員 50人	1/18、1/20	入居者 36人 職員 48人

※ 上記は施設内で接種行い、時期をずらしての接種はいちばん館にて6名行っています。

※ 副反応については、おおむね熱発のみ。呼吸困難などの重症者はゼロ。

(2) インフルエンザ予防接種状況

11/9	入居者42人 職員49人
------	--------------

※ 施設内で接種。副反応者はいませんでした。

(3) 通院状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
大町病院		2人										1人	3人
あづま脳外	1人	1人	1人	2人	3人	1人	1人	3人			2人	4人	19人
小野田病院						1人							1人
済生会川俣									1人				1人
くまがみ歯科				1人			2人						3人
あんざい整形												4人	4人
延人数	1人	3人	1人	3人	3人	2人	3人	3人	1人	0人	2人	9人	31人

(4) 入院状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
あづま脳外科 実日数	8日	6日	12日	17日	0日	28日	6日	2日	10日	18日	2日	10日	119日
実人数	1人	1人	1人	1人	0人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	11人

令和3年度 厨房事業報告

1. 基本方針について

「食べたいと思う・食べるきっかけとなる・そのひと口を大切に」をテーマに、食べる事が難しくなってきたても、好きな物や馴染みのある料理・食べ易い物などを提供してきたことにより、食べる意欲や食のきっかけをつくり、体調維持や回復に繋がられたと思います。

2. 実施内容について

(1) 年間実施食数

食種	経口食	経管栄養	職員食	検食	家族食
年間食数	38,157食	5,740食	8,942食	1,095食	
1ヶ月平均	3,180食	478食	745食	91食	
1日平均	105食	16食	24食	3食	
年間総食数	53,934食				

(2) 年間食材費

食材費	特養
平均	1人1日 882円
食材費総額	15,854,859円

(3) 年間平均食事栄養量

栄養量	熱量	たんぱく質	脂質	塩分	炭水化物
特養	1,411kcal	59g	33g	6.5g	260g

(4) 栄養ケアマネジメント

対象者	対象者	実施期間	見直し期間
特養	入居者全員	通年	3ヶ月。但し、食事形態に変更があった場合は、その都度随時見直し対応
(令和4年3月31日現在)			
アセスメント結果 入居者 44名	低リスク（問題ない者） 24名	中リスク（やや瘦傾向・経管者） 19名	高リスク（食事中止、点滴） 1名

(5) 食事形態

入居者44名（令和4年3月31日現在）						
軟食	キザミ食	ソフト食	ペースト食	ゼリー食	経管栄養	食事中止、点滴
21名	11名	3名	1名	3名	4名	1名

3. 食事サービスの具体的な施策について

<p>① 栄養ケアマネジメントの充実</p> <p>多職種協働で低栄養状態の予防や改善のため検討を重ね、栄養計画に基づいた食事提供、評価、モニタリングを経て個別ケアに反映してきました。</p> <p>（今後も日々変化する状態の把握に努め、維持・改善に繋がれるよう取り組んでいきます。）</p>
<p>② 口から食べる事を大切に食事提供</p> <ul style="list-style-type: none"> 食欲が湧くよう見た目を工夫、また、一人ひとりの嚥下状態に合わせた形態の食事や摂取量、利用者の声に応じ好きな物・食べやすい物・高栄養の物などを提供、体力低下予防に努めてきました。 （次年度も食べる楽しみを感じられるよう献立に反映させていきます。） コロナ禍が長びき、皆一緒に集まる行事が出来ず残念でしたが、その分、季節を五感で感じ楽しんで頂けるよう行事食に力を入れてきました。 （行事食を楽しみにしている人は多いため、刺身盛りや寿司、幕の内弁当、流しそーめん、

<p>鍋料理など、見栄え良く盛り付け、季節食を楽しんでもらえるよう今後も提供して行きます。）</p> <ul style="list-style-type: none"> 誕生会では、一人ひとりの要望や好みにより、従来のスポンジケーキに加え、ぼたもちケーキやカロリー控えめ水ようかんケーキ（デコレーションもクリームの代わりにあんこで装飾）、ティラミスケーキなども提供してきました。 （ケーキを届けた時、凄く喜んでる顔を見ると、作り甲斐があり次もまた頑張ろうと思います。今後も食材や希望に寄り添って作って行きたいと思います。）
<p>③ 安心・安全な食事の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスを含む各種感染症や食中毒予防に気を付け、衛生管理に努めてきました。 （今後も専門機関の検査を受けながら環境衛生を保ちつつ、自身の体調管理にも十分気をつけいきます。） 災害非常時に備え70名分7日分の食料や水等を施設内に備蓄。また、食品の期限管理と非常食訓練を兼ねて献立に取り入れ提供してきました。 （大きな地震が2年続けて起こり安心できない状況やコロナ禍での生活も長く続きそうなことから備蓄とマニュアルを再確認し、柔軟に対応出来るよう今後も非常時に備える。）
<p>④ 意識と技術向上の取り組み</p> <p>薄味でも皆が美味しく食べられる工夫と効率的な調理方法として真空調理に取り組んで来ました。今までの調理工程と異なるため調理マニュアルやレシピ作りが難しかったものの、新しい取り組みが出来て良かったと思います。また、真空調理は普通調理より長く保存できるため非常食も兼ねられる利点もあり、3月16日の大地震の翌日も影響なく、いつも通りに食事を提供できました。 （今後、真空調理が軌道に乗り、時間が空けば各家との関わりに参加して行きたいと思います。）</p>
<p>⑤ 情報共有と多職種連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 家会議を通して多職種と情報を共有し、状況把握に努めてきたつもりですが、慣れや気の緩みから他部署に迷惑をかけてしまう事がありました。今後の反省点でもあります。

4. 年間実施行事食について

月	行事	月	行事	月	行事
4		8	お盆、夏祭りメニュー	12	クリスマス会、餅つき、大晦日
5	母の日、柏餅作り	9	敬老会、秋彼岸	1	新年会、七草、小正月、(賀寿祝い)
6	父の日	10	開所記念日	2	
7	七夕会、土用の丑	11	芋煮会(各家)	3	ひな祭り、春彼岸

5. 一年をふり返って

東日本大震災後、最近まで大きな地震が2年続けて発生したり、コロナ禍が長引いたり大変な状況にありましたが、ホームの中は至って穏やかで、笑顔で過ごされていたのかなと思います。

特に食事時には「美味しかったよ。若い人の作るの料理は美味しいね～」の言葉に、私達も励まされ元気を頂いています。

今後も、利用者に感謝しながら、アットホームで温かいホームを目指し、より美味しく頂ける料理が提供できるよう努めて行きたいと思います。

令和3年度 いいたて在宅介護支援センター
指定居宅介護支援事業所事業報告書

1. 基本方針について

介護保険の基本理念である「高齢者の自己決定権の尊厳」・「自分らしい生活の継続」・「自立支援」を基本に、利用者や家族の意向を踏まえ自立支援に向けた居宅サービス計画を作成し、事業者や関係機関と連携を図り避難先等でも家族との繋がりが継続できるよう支援を行ってきました。

(1) 信頼関係の構築について

ケアプランを立案するにあたり、利用者とその家族との信頼関係を得るため、コミュニケーションを図り、また、避難先の環境把握にも努め、サービス事業者共に迅速な対応をしてきました。

(2) 課題を正確に捉えることについて

生活環境の変化や心配ごと、不安な点など、予測される課題についても事前に検討を行ってきました。

(3) 情報提供について

必要としている介護保険制度を含めた様々な情報の提供。また、避難先でも利用できるサービス等、その地域の資源活用についても情報提供を行ってきました。

(4) モニタリングを行うについて

常に状況を把握し、状態にあった支援が提供できるよう努めてきました。また、訪問以外にも、電話等で相談や状況を把握してきました。

(5) 利用者の立場に立つについて

常に利用者と家族の立場に立ち対応することに努めてきました。

— 評価と課題 —

コロナ禍ではあったものの、サービス提供事業者や関係機関との連絡体制を徹底、情報の共有を図りながら身体の状態変化や生活環境・家族の健康状態等の把握を行い、より適切な対応ができるよう努めてきました。一方、個々の介護保険給付サービス等の適正化（過剰なサービスになっていないか等）を図って行くことも必要となってくると思われます。

2. 具体的な施策について

《ケアマネジメントの充実》

(1) アセスメント（課題分析）について

利用者及び家族の希望等を把握し、解決すべき課題や日常生活に対する可能性を抽出し、それらに基づく目標に導いてきました。また、得られた情報はケアマネジメントの中核とし、状態像を十分に把握してきました。

(2) サービス担当者会議（ケアカンファレンス）について

利用者及び家族、サービス提供事業所が直接に会し、生活への希望や課題を確認することで、その思いをケアチーム全員が共有できると共に、利用される側も安心感を持って頂けるよう努めてきました。

(3) モニタリング（サービス実施状況の把握及び評価）について

継続的なアセスメントでもあり、利用者や家族の希望や苦情を具体的に口に出せるような関係を築いてきました。また、サービスの実施状況も同時に確認してきました。

(4) 居宅サービス計画の見直し（再アセスメント）について

モニタリングの結果から、ケアプラン変更の必要性が生じた時は、内容を確認し利用者の状態変化やニーズを再把握しながら居宅サービス計画を見直してきました。

(5) 給付管理について

サービス提供事業者からの実績報告を受け、内容を確認し「給付管理票」を作成し翌月

10日までに県国民健康保険団体連合会に提出してきました。

【給付管理請求一覧】

月	取扱い件数	介護報酬額	月	取扱い件数	介護報酬額
4	53件	737,820円	10	49件	679,910円
5	53件	737,260円	11	52件	729,730円
6	51件	711,060円	12	47件	654,460円
7	48件	667,920円	1	43件	604,690円
8	47件	660,100円	2	44件	598,690円
9	49件	681,580円	3	48件	676,960円
合 計			584件 8,140,180円		

— 評価と課題 —

サービス提供事業所との連絡調整を密に行い、状況に応じた適正なサービス利用に向け調整を行ってきました。しかし、県内の介護保険サービス提供事業者は、慢性的な人員不足状態が続いている状況の他、新型コロナウイルス感染防止に伴いサービス利用を慎重に実施している状況にもあります。それでも、利用者や家族の希望を受け入れながら、給付サービスの適正化を図り、介護保険以外のサービスも取り入れながら各種事業所との連絡調整を密にしていきたいと思えます。

3. 重点事業目標について

(1) 利用者及び家族に対し、居住地域の福祉サービス情報提供について

希望するサービスを把握し、実際に居住する地域で対応可能なインフォーマルサービスを含め情報提供を行ってきました。

— 評価と課題 —

居住地域毎にサービスの調査を行い、利用者や家族に適していると思われるサービスの情報提供を適宜行うことができました。今後、情報収集の方法については、より効果的に図れるよう関係機関と連携を密にする必要があります。

(2) 毎月のモニタリング以外でも常時の状態把握について

サービス提供事業所や医療機関等と状況確認を行うことにより、本人は元より家族の状況把握も行ってきました。

【訪問活動内容と訪問件数】

月	契約 アセスメント	モニタリング	サービス担当者会議 カンファレンス	サービス調整 申請代行など
4	1件	57件	5件	6件
5	4件	59件	2件	0件
6	3件	52件	7件	2件
7	3件	58件	3件	4件
8	2件	52件	7件	4件
9	1件	50件	9件	2件
10	3件	50件	8件	3件
11	2件	54件	6件	4件
12	3件	50件	3件	2件
1	1件	47件	5件	1件
2	0件	50件	5件	2件
3	2件	56件	2件	6件
計	25件	635件	62件	36件

— 評価と課題 —

定期的な訪問活動のほかにも、関係機関との連携を図り、支援活動を展開できたが、今後は離れて暮らす家族との連携も必要と思えます。

(3) サービス利用事業所からの情報収集について

直接接する機会の多い事業所からの情報をもとに、その状況に適した支援を行う事ができました。

— 評価と課題 —

状況を逸早く把握できることで、状況に応じた支援活動が出来たことには評価できるものと思っています。今後も、常に情報収集を行い問題等の早期発見や早期解決を図っていきたいと思います。

(4) 医療機関との連携について

入退院時の情報共有を相双圏域と県北圏域双方のルールに基づき、医療機関と利用者の情報共有を図ってきました。

— 評価と課題 —

入退院時調整ルールについては、運用が定着し関係機関に理解されていると思われるものの、細部についてはこれから本格的に活用されて行くと思われます。

(5) 課題等情報の共有及び相談業務の活性化について

相談支援業務だけに関わらず、居住地域での生活情報やサービス提供情報などについて、相互に持っている情報の共有を図ってきました。

— 評価と課題 —

複数の職員体制と云うこともあり、様々な問題に対し、連絡や情報交換が取りやすい環境となっています。今後も継続し、利用者支援に関する情報は勿論のこと、サービス提供事業所や医療機関等に関することについても情報の共有を図っていきたいと思います。

(6) 要介護認定調査について

飯舘村の委託を受け、要介護認定調査を実施。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
在宅調査	2件	5件	5件	6件	6件	5件	5件	5件	1件	2件	6件	0件	48件
施設調査	0件	0件	1件	0件	0件	1件	3件	1件	6件	4件	0件	3件	19件
合計	2件	5件	6件	6件	6件	6件	8件	6件	7件	6件	6件	3件	67件

— 評価と課題 —

事前に連絡調整を行う事で、遅滞することなく認定調査を行うことができました。中にはサービス利用目的ではない調査などもあり、更新目的の聞き取り調査なども必要ではないかと感じられます。

(7) 効率的かつ効果的な活動について

サービス希望者が、広範囲に居住しているため移動時間が多くなっています。そのため、相談内容の事前把握や関係機関との調整を電話などで行い、相談や支援業務を効果的にこなせるよう活動を行ってきました。

— 評価と課題 —

訪問活動を中心に、関係機関との連携を図り、支援活動を効果的且つ効率良く展開できました。今後も早期の問題把握に努め、より効率的な活動に努めたいと思います。

4. 介護支援専門員の資質・専門性の向上について

(1) 専門知識及び技術向上に努めてきました。

研修会に参加し、その内容について周知徹底に努めてきました。

- ・ 飯舘村地域包括支援センター主催の地域ケア会議へ参加（年間4回）
- ・ 原町方部介護支援専門員連絡協議会へ参加（リモート研修）

(2) 不満や苦情があれば、迅速且つ適切な対応が図れるよう努めてきました。

- ・ 訪問時、本人や家族の不安・不満等について確認し、サービス事業所へ繋げ改善を促し、質の向上に取り組んできました。

(3) 秘密保持及び個人情報の取り扱いを適正に行ってきました。

- ・ 個人情報等の取り扱いについては、常に慎重を期すよう取り組んできました。

(4) 困難事例ケースの検討や新規ケースの情報を共有することで、スムーズに取り組むことができました。

— 評価と課題 —

新型コロナウイルス感染防止の観点から、研修会の自粛や開催頻度の減少、開催方法の変化（リモート研修など）がありました。

困難事例ケースについては、地域包括支援センターやサービス提供事業所とも連携を図ってきましたが、近年は、家族による介護力と意識低下に関する問題が多くなってきているように感じます。

5. 在宅介護への支援について

(1) 介護保険制度やサービス内容の周知を行ってきました。

サービス利用については、利用者のニーズに合わせ、其々の居住地で希望するサービスを提供できるよう取り組んできました。

(2) 介護方法や社会資源の利用について周知を行ってきました。

介護に関わるアドバイス、認知症の対応方法、居住地での利用可能な社会資源について説明を行ってきました。また、インターネットなどを活用した介護方法のアドバイスも実施してきました。

— 評価と課題 —

居住地の行政機関と飯館村との連絡調整はもとより、利用者やその家族が抱える不安を少しでも解消できるよう相談援助活動を継続していく必要があると思います。

6. 各関係機関との連携の強化

(1) 地域包括支援センターを始め、各関係機関との連携を密に、ニーズに沿ったケアマネジメントが行えるよう取り組んできました。

他市町関係機関と連携を図りながら、ケアマネジメントに反映してきました。

(2) 困難事例の検討と改善について

困難事例については、本人や家族は勿論のこと、地域包括支援センターや各市町のサービス提供事業者とも連携を図り改善に向けて取り組んできました。

(3) 地域ケア会議への参加

地域ケア会議に出席し、各種機関が抱える困難な課題や解決方法等について、意見交換を行い情報の共有を図ってきました。

— 評価と課題 —

居住地の地域包括支援センター等各種関係機関とも連携し、支援できたことについては評価できるものと感じています。今後も利用者と家族の生活環境の変化に対し、どのように対応できるか各関係機関との連携が重要と考えます。

令和3年度 事務室事業報告

1. 基本方針について

法改正に伴い、法的根拠に基づく規則等の整備を迅速に行い、また、人材確保に係る職場環境等の取り組みについても概ねクリアできたと思います。

2. 主な内容について

(1) 規則等の変更と書類整備

法改正や業務効率を高めるため規則等を適宜整備してきました。

規則等	変更内容
就業規則	事務の効率化を求め申請様式の一部変更
職員の就業時間等に関する細則	業務内容見直しによる時間帯の一部追加
育児・介護休業等に関する細則	法改正に基づく休業取得要件の緩和に伴う一部変更
給与規則	介護職員処遇支援補助金の交付に伴う手当の新設
臨時雇用職員管理規則	介護職員処遇支援補助金の交付に伴う手当の新設
担当する関係諸帳簿	内容や綴りの点検

(2) 後方支援

各部署が活動し易いように後方支援の役目を担ってきました。

	内容
週間予定の周知	週間行事やその内容の説明（朝のミーティング時）
説明会	法改正に伴う変更点について説明（朝のミーティング、家長会議等）
書類の整備	各種マニュアルの変更や作成のお手伝い。

(3) 財源の維持確保

適切な予算を執行するため、各分野において見直しや補助金等を活用してきました。

	内容
予算の再検	<ul style="list-style-type: none"> 委託契約等の内容の見直し。（施設側で出来るものは施設で行い無駄を省いてきた。） 書類上の遣り取りは出来るだけメール等で実施。（時間、配送等の節約）
補助金等の活用	<ul style="list-style-type: none"> 福島県被災地介護施設運営支援事業（運営費補助） 福島県被災地介護施設再開等支援事業（人材確保のためのPR活動費用等） 結核予防事業（健診費用） 東電への賠償交渉

(4) 人材確保

新たな広報活動、環境整備に努め、人材確保に繋がる取り組み提案してきました。

内容
<ul style="list-style-type: none"> 施設のPRや職員募集等をスマホでも簡単に検索できるよう刷新。 業務を見直し募集幅を広げる。（直接介助と間接介助、それ以外の業務）

3. その他

必要時に必要な内容を伝達できるよう、適宜、事務所内での勉強会を実施してきました。

<ul style="list-style-type: none"> 介護職員処遇支援補助金の概要と試算について 育児・介護休業の法改正について 勤怠管理システムの導入について

令和3年度 研修一覧

研修期間	研修者氏名	所属	研修名	研修場所	備考	開催者	内容
4月10日～4月10日	佐藤智恵子	特養	新型コロナワクチン優先接種施設説明会	福島テルサ	15:00～	福島市保健所	ワクチンの配送、受け取りについて他
4月28日～4月28日	小川 秀行	特養	福島県老人福祉施設協議会 第6回総会	福島県運動遊センター交流棟ホール	13:30～	県老協	令和2年度事業報告について他
5月25日～5月25日	菅野 若菜	特養	高齢者福祉施設における新型コロナウイルス感染症対策研修	施設内研修 いいだてホーム (会議室)	14:00～	県高齢福祉課	高齢者福祉施設における感染防御対策について他
5月27日～5月27日	齋藤 美波	特養	令和3年度認知症高齢者対応研修(中止)	コラックス敷海	12:50～	県社協	認知症高齢者の対応の基本
5月28日～6月11日	全職員	特養	高齢者福祉施設における新型コロナウイルス感染症対策研修	施設内研修 いいだてホーム (会議室)	動画配信	県高齢福祉課	高齢者福祉施設における感染防御対策について他
6月1日～6月30日	全職員	特養	令和3年度機能訓練担当職員研修会	施設内研修 いいだてホーム (会議室)	動画配信	県老施協	トランスファァー
6月14日～6月14日	井上 祥行	特養	令和3年度老人福祉施設職員研修Ⅰ	ウィル福島	13:00～	県社協	介護現場における看取り
6月17日～6月17日	浦住すみい	特養	令和2年度専門研修Ⅱ	福祉会館	10:00～	県介護支援専門員協会	集合研修
6月22日～6月22日	菅野ゆかり	在介	原町方部介護支援専門員連絡協議会 研修会	福祉会館	13:30～	原町方部介護支援専門員連絡協議会	令和3年度介護報酬改定について
6月26日～6月26日	高野 拓巳	特養	令和2年度社会福祉法人会計実践的決算講習	施設内研修 いいだてホーム (会議室)	8:30～	全国老施協	令和2年度社会福祉法人会計実践的決算講習
6月30日～7月15日	橋本 祥	特養	令和3年度福島県喀痰吸引等基本研修(第1号・第2号)	福島県男女共生センター	9:00～	県社協	喀痰吸引等基本研修(第1号・第2号)
7月1日～7月31日	全職員	特養	令和3年度災害・リスク対策研修会(動画配信)	施設内研修 いいだてホーム (会議室)	動画配信	県老施協	事業継続計画(BCP)の策定について(仮題)
7月5日～7月5日	佐藤 祐子	特養	令和3年度新人向けOJT(プリセプター)先進事例研修(オンライン研修)	施設内研修 いいだてホーム (会議室)	13:30～	県社協(県委託)	令和3年度介護報酬改定について
7月15日～7月16日	齋藤 伸	特養	令和3年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修過程中等職員研修(キャンセル)	県社会福祉センター	10:00～	県社協	中堅職員としてのキャリアデザインと自己管理他
7月20日～7月20日	橋本 祥	特養	令和3年度福島県喀痰吸引等基本研修(第1号・第2号)	福島県男女共生センター	13:00～	県社協	喀痰吸引等基本研修(第1号・第2号) 筆記試験
8月18日～8月19日	橋本 祥	特養	令和3年度福島県喀痰吸引等基本研修(第1号・第2号)	福島県男女共生センター	9:10～	県社協	喀痰吸引等基本研修(第1号・第2号) 実技試験
8月23日～8月23日	菅野ミサ子	特養	令和3年度社会福祉施設看護等職員研修(オンライン研修)	施設内研修 いいだてホーム (会議室)	13:30～	県社協	社会保障制度【2025年問題から現在】 他
8月23日～8月24日	高野 拓巳	特養	令和3年度キャリアパス制度運用研修(オンライン研修)	施設内研修 いいだてホーム (会議室)	9:40～	県社協	キャリアパス制度の構築から運用 他
8月25日～8月25日	佐々木裕行	特養	令和3年度第1回法人連絡協議会(延期)	社会福祉法人 田村福祉会本部	10:30～	社会福祉法人田村福祉会	令和3年度第1回法人連絡協議会

研修期間	研修者氏名	所属	研修名	研修場所	備考	開催者	内容
8月26日～8月26日	小林 明美	特養	介護施設における安全対策担当者養成研修	施設内研修 いいたてホーム (会議室)	Eラーニング	全国者協	制度説明と目的他
8月26日～8月26日	木橋 佳代	特養	介護施設における安全対策担当者養成研修	施設内研修 いいたてホーム (会議室)	Eラーニング	全国者協	制度説明と目的他
8月27日～8月27日	高野 拓巳	特養	安全運転管理者等講習	鹿島農村環境 改善センター	9:00～	福島県公安委員会	安全運転管理者
9月1日～9月3日	菅野 大喜	特養	令和3年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 初任者研修	福島県総合社会 福祉センター	9:30～	県社協	福祉職員としてのキャリアデザインと自己管理 他
9月6日～9月6日	菅野 明洋	特養	令和3年度キャリアパス制度理解研修 (オンライン研修)	施設内研修 いいたてホーム (会議室)	10:30～	県社協	令和時代のキャリアパス構成
9月7日～9月7日	佐々木 裕行	特養	2021年度ユニットケア施設管理者研修 (オンライン)	施設内研修 いいたてホーム (会議室)	13:30～	ユニットケア推進センター	第1回 ユニットケア施設管理者研修
9月10日～9月10日	山田 義忠	特養	令和3年度 社会福祉法人監事研修	福島県農業総合 センター	9:20～	県社協 (県委託)	社会福祉法人監事が担う実務の基本と監事監査のポイントに ついて
9月10日～9月10日	佐藤 敏子	特養	令和4年度 社会福祉法人監事研修	福島県農業総合 センター	9:21～	県社協 (県委託)	社会福祉法人監事が担う実務の基本と監事監査のポイントに ついて
9月11日～9月12日	脇屋 恵	特養	令和3年度 実習指導者講習会	福島県男女共生 センター	9:00～	福島県介護福祉協会	介護の基本 他
9月15日～9月16日	佐々木裕行	特養	2021年度ユニットケア施設管理者研修 (オンライン)	施設内研修 いいたてホーム (会議室)	10:00～	ユニットケア推進センター	第1回 ユニットケア施設管理者研修
9月25日～9月26日	脇屋 恵	特養	令和3年度 実習指導者講習会	郡山市中央公民館	9:00～	福島県介護福祉協会	スーパービジョンの意義と活用及び学生理解 他
9月28日～9月29日	高野 拓巳	特養	令和3年度甲種防火管理新規講習	鹿島区農村環境 改善センター	9:00～	相馬地方広域消防本部	防火管理の意義 他
10月1日～10月31日	全職員	特養	令和3年度 安全対策研修会 (動画配信)	施設内研修 いいたてホーム (会議室)	動画配信	県者協	介護事故に向けた安産対策担当者研修
10月26日～10月26日	佐々木裕行	特養	令和3年度 社会福祉法人理事研修	福島県農業総合 センター	12:50～	県社協	これからの社会福祉法人経営と理事の役割
10月28日～10月28日	佐藤智恵子	特養	令和3年度 法人向け採用力強化研修	施設内研修 いいたてホーム (会議室)	13:00～	県社協	福祉業界における採用活動のポイント
10月29日～10月29日	山田 義忠	理事	令和3年度 苦情解決責任者・第三者委員研修 (定員オーバー)	福島県総合社会 福祉センター	10:30～	県運営適正委員会	苦情解決制度の仕組みと意義について
10月29日～10月29日	佐藤 敏子	理事	令和4年度 苦情解決責任者・第三者委員研修 (定員オーバー)	福島県総合社会 福祉センター	10:30～	県運営適正委員会	苦情解決制度の仕組みと意義について
10月29日～10月29日	庄司 菊乃	特養	令和3年度 社会福祉施設等職員初任者基礎研修	施設内研修 いいたてホーム (会議室)	13:40～	県社協	福祉職員としての心構え
11月1日～11月30日	全職員	特養	令和3年度 給食担当者研修	施設内研修 いいたてホーム (会議室)	動画配信	県者協	介護報酬改定(栄養関連)の概要について 他
11月1日～11月30日	全職員	特養	令和3年度 生活相談員研修	施設内研修 いいたてホーム (会議室)	動画配信	県者協	高齢者虐待について

研修期間	研修者氏名	所属	研修名	研修場所	備考	開催者	内容
11月9日～11月11日	坂本 洋一	特養	令和3年度 福島県介護支援専門員更新研修 (実務未経験者)個人研修	施設内研修 いいだてホーム (会議室)	動画配信	県社協	介護保険制度の理念・現状及びケアマネジメント 他
11月18日～11月18日	齋藤真知子	特養	2021年度ユニットケア研修 (オンライン)	施設内研修 いいだてホーム (会議室)	10:00～	ユニットケア推進センター	第9回 ユニットケア施設管理者研修
11月25日～11月25日	嶋原やすえ	特養	令和3年度 社会福祉法人事務長等研修	施設内研修 いいだてホーム (会議室)	12:30～	県社協	働き方改革関連法令の内容と労務管理上の対応のポイント
11月25日～11月26日	齋藤真知子	特養	2021年度ユニットケア研修 (オンライン)	施設内研修 いいだてホーム (会議室)	10:00～	ユニットケア推進センター	第9回 ユニットケア施設管理者研修
11月26日～11月26日	木橋 佳代	特養	令和3年度 苦情受付担当者研修	福島県総合社会 福祉センター	10:30～	県社協	苦情解決制度の仕組みと意義について 他
11月29日～11月29日	高野 拓巳	特養	令和3年度 介護事業新担任者及び退職手当共済事業事務説明会	施設内研修 いいだてホーム (会議室)	10:30～	県社協	福島県社会福祉協議会共済事業事務説明 他
11月30日～11月30日	菅野 大喜	特養	認知症ケアセミナー	施設内研修 いいだてホーム (会議室)	14:00～	日本介護支援協会	BPSDの正しい理解と評価尺度の使い方
12月1日～12月31日	看護職	特養	令和3年度 医師担当職員研修会	施設内研修 いいだてホーム (会議室)	動画配信	県老施協	多職種連携について
12月2日～12月2日	佐々木裕行	特養	令和3年度第1回法人連絡協議会	社会福祉法人 田村福祉本部	10:30～	社会福祉法人田村福祉会	令和3年度第1回法人連絡協議会
12月6日～12月6日	嶋原やすえ	特養	令和3年度 福島県経営協・全国経営協との共催セミナー (WEB)	施設内研修 いいだてホーム (会議室)	13:30～	県経営協	SDGsと社会福祉法人
12月6日～12月16日	坂本 洋一	特養	令和3年度 福島県介護支援専門員更新研修 (実務未経験者)集合研修	ビックバレット ぶくしま	9:00～	県社協	自立支援のためのケアマネジメントの基本 他
12月8日～12月8日	北里真由美	特養	令和3年度 社会福祉施設栄養士研修 (オンライン研修)	施設内研修 いいだてホーム (会議室)	13:20～	県社協	低栄養について 他
12月17日～12月17日	佐々木裕行	特養	令和3年度相双地区特別養護老人ホーム連絡協議会 オンラインミーティング	施設内研修 いいだてホーム (会議室)	13:30～	相双特養連絡協議会	今後の支部活動について 他
12月19日～12月27日	井上 祥行	特養	令和3年度介護支援専門員実務研修 前期 個人研修	施設内研修 いいだてホーム (会議室)	動画配信	県社協	介護保険制度の理念・現状及びケアマネジメント 他
12月17日～12月20日	菅野 若菜	特養	令和3年度高齢者権利擁護等推進事業看護実務者研修	福島看護会館 みらい	9:20～	福島県看護協会	介護保険制度と看護職員の役割 他
12月24日～12月24日	山口 明子	特養	令和3年度 老人福祉施設職員研修II (オンライン研修)	施設内研修 いいだてホーム (会議室)	13:40～	県社協	施設における身体的拘束等廃止の取り組み等について
1月12日～1月19日	井上 祥行	特養	令和3年度福島県介護支援専門員実務研修	ビックバレット ぶくしま	9:00～	県社協	自立支援のためのケアマネジメントの基本 他
1月26日～1月27日	井上 祥行	特養	令和3年度介護支援専門員実務研修 後期 個人研修	施設内研修 いいだてホーム (会議室)	動画配信	県社協	基礎知識 他
1月27日～1月27日	菅野ゆかり	在介	令和3年度 苦情受付担当者研修 (中止)	施設内研修 いいだてホーム (会議室)	10:30～	県社協	苦情解決制度の仕組みと意義について 他
2月17日～2月21日	井上 祥行	特養	令和3年度介護支援専門員実務研修 実習	福寿園	動画配信	県社協	模擬ケアプラン作成実習 他

研修期間	研修者氏名	所属	研修名	研修場所	備考	開催者	内容
2月4日～2月4日	菅野ゆかり	特養	令和3年度第1回地域ケア推進会議 (中止)	飯舘村役場 第一会議室	13:30～ 15:30	飯舘村地域包括支援センター	検討事例の整理、分析、予測他
3月3日～3月10日	井上 祥行	特養	令和3年度介護支援専門員実務研修 後期 集合研修	施設内研修 いいたてホール (会議室)	10:00～	県社協	居宅サービス計画等の作成 他
2月25日～2月25日	菅野ゆかり	特養	令和3年度第1回地域ケア推進会議	飯舘村役場 第一会議室	13:30～ 15:30	飯舘村地域包括支援センター	検討事例の整理、分析、予測他
3月15日～3月15日	佐々木裕行	特養	令和3年度飯舘村地域包括支援センター運営協議会	飯舘村役場 第一会議室	13:30～ 15:30	飯舘村地域包括支援センター	令和3年度事業報告、令和4年度事業計画について他
3月15日～3月15日	佐藤智恵子	特養	飯舘村介護保険運営協議会	飯舘村役場 第一会議室	15:00～	健康福祉会	介護保険運営状況について他
合 計							
54研修（うち中止や延期等の研修6）							